エスペニュース

Esperanza News

Vol. 22

“ガンバラナイ春号”

【発　　行】医療法人社団友和会
共同生活援助事業所エスペランサ
短 期 入 所 事 業 所エスペランサ
相 談 支 援 事 業 所エスペランサ
【発行責任者】林千代子
【住　　所】〒738-0202
廿日市市峠字下ヶ原 500 番地
【TEL／FAX】0829-74-1106／0829-74-1176
【E‐mail】esperanza@yuwa-hosp.com
【法人ホームページ】http://www.yuwa-hosp.com

《新事業所開設のお知らせ》

“ついにその日が来たか…”

これは、「計画相談をやるって言っといたけ」と上司から言われた時の、私の率直な感想です。苦労している仲間を見てきた者の一人としては、できることなら避けて通りたい道でした。しかし、ソーシャルワーカーとして仕事をし、さらに相談支援専門員の資格を取得した以上は、避けては通れない道でもあると思っていました。上司から宣告を受けたあの日がまさに、自分自身の“Xデー”となりました。

ご案内が遅れましたが、今年の 1 月からエスペランサではこれまでの「共同生活援助事業（グループホーム）」・「短期入所事業（ショートステイ）」に加え、「相談支援事業（計画相談支援・地域移行支援・地域定着支援）」を行っています。それに伴いまして、私は相談支援事業所に異動になりました。“異動”と言いましても、部屋はこれまで相談室として使用していた部屋を間借りしておりますので、デスクが隣の部屋に“移動”したに過ぎない訳ですが…。

平成 24 年 4 月の障害者自立支援法の一部改正により、平成 27 年 3 月までに障害福祉サービスを利用する全ての方に、サービス等利用計画を作成することになりました。エスペランサ（グループホーム、ショートステイ）をこれから新規に利用される方や現在利用中で受給者証の期限が切れる方から、サービス等利用計画の作成を順次行うことになります。当然のことではありますが、エスペランサの利用者さんだけでなく、事業の主な実施地域である佐伯・吉和地域にお住まいの方の計画作成も依頼があれば受けていくこととなります。まだ動き始めたばかりで勝手が分からず、わずか数件ケースを持っただけで右往左往しているような状況ですが、他事業所の相談支援専門員の中には、1 人で 80 件とか 100 件とかいう、私からすれば超人的かつ天文学的な数のケースを持たれている方もいらっしゃるようです。ヒルマン元日ハム監督風に言うと、「シンジラレナーイ！」働きぶりです。かつて、あることで先輩から「お前は自分のアセスメントができてない」とお叱りを受けたことがありました。数年経った今頃になってようやくそのお言葉の意味を実感しているような段階ですので、本来であれば人様のアセスメントをさせてもらえるような立場ではないのですが、そうも言ってられない状況（増えてきたとはいえ、市内に計画を作成する指定特定相談支援事業所は、平成 26 年 1 月 1 日現在でわずか 13 事業所。その内、精神障害の方を受けているのが 8 事業所。平成 27 年 3 月まで残り 1 年を切り、市内約 1,000 人分の計画作成は一体どうなるんだ！？）がある以上、今は「ガンバラナイといけないでしょう」と自分自身に言い聞かせております。事業の収入的には大変厳しく、法人内では非常に肩身が狭い思いをしておりますが、残念なことに狭くなってほしい腹身の方はその気配が全くありません。それも「私なりって事でいいでしょう」。

引き続き、ご支援のほどよろしくお願いします。（宮地秀樹）

《研修報告①》地域実践のための「精神保健福祉」講座

「これからの地域移行支援・地域定着支援について考える」～出雲地域からのメッセージ～

【2013 年 10 月 5 日（土）　東区地域福祉センターにて開催】

出雲から 2 名の講師が来広され、相談支援の体制、地域移行支援・地域定着支援、個別支援の実際、地域課題への取り組み等についてのお話を伺いました。まず、県内の相談支援事業所、福祉サービス事業所等を利用されている方のアンケート結果について報告がありました。約 9 割の方が地域移行支援について知らないとのことでした。思っていた以上に認知度が低いことが分かりました。これは支援者がきちんと地域移行について説明できていないということを表しており、改めて伝えることの必要性を感じました。

講師の方のグループホームでは 2 年以上住まれている方はいないとのことでした。退所の主な理由は「共同で居る（住む）ことが辛くなる」が一番だそうです。現在、エスペランサを利用されている方の平均在所期間は、福祉ホーム B 型の時代から継続して住まれている方を含め、49 ヶ月（約 4 年）となっています。まだ移行して日が浅いので単純に比較はできませんが、個人的には「エスペランサが住みやすい」のではなく、「スタッフが退所の支援を上手くできていない」結果だと感じています。生活に慣れてしまうと退所したいという意欲がなくなるのか、地域への移行が上手く進んでいないように思います。面接時に利用者さんからよく耳にする言葉があります。「最初は病院の方が良かったが、今はエスペランサが良い」「このままで良い」と。正直、この言葉に僕自身少し喜んでいた気がします。講座を聞いて、自分は何をしていたのかと反省させられました。エスペランサは、病院から退院する際の選択肢の一つと思っていました。しかし、実際のところは、退院する際の選択肢が“一つ”しかなかった。利用者（患者）さんには、地域（社会）で生活していく選択肢が他になかったのだと思い知らされました。情報提供できていないから利用者が選べない。情報提供の重要性を改めて知ることができ、当事者中心の支援が出来ていなかったと感じました。当事者、家族や医療・福祉スタッフそれぞれが問題を抱え、お互いに壁を感じており、地域移行が進まないという現状を打破するために、医療関係者や福祉関係者、市町村等を巻き込んでチームとして動き、密な連携をとりながら地域移行を進めていかなければならないと切に思いました。

講座で一番印象に残った言葉は、「病状があってもいい。病状にあわせて支援する」。要は、支援する側の体制が整っていれば、安定していなくても地域移行が可能であるということ。それと、「ピアサポーター」※の重要性。同じ病気や症状を抱え、実体験があるからこそ説得力が有り、悩みなどの相談もでき、当事者にとってこころの支えになる。自信回復に繋がる。まずは今自分に出来る事を一つ一つ考えながら当事者中心の支援をしていきたいと思う。（報告者；入江一臣）

【用語解説】※ピアサポーター

「疾患や障がいがあり保健福祉サービスの受け手（利用者）であり、かつ保健福祉サービスの送り手（職員）となっている人で、かつそれを仕事として報酬を得ている人」のこと。「ピアスタッフ」「当事者スタッフ」「メンバースタッフ」「ピアサポーター」等々、名称は様々で、それらの定義はあいまい。

ピアサポーターは、利用者とのかかわりの中で、自らの人生経験を生かして、時には適切に語ることをとおして、他者のリカバリーに寄与する専門職といえる。ここには、他者に変わることのできない「経験」と、それを「生かし」「適切に語る」という専門性がある専門職といえる。つまり、他職種支援チームの一員として活躍する専門職者となり得る存在である。

【参考文献】

題名；精神障がいピアサポーター
活動の実際と効果的な養成・育成プログラム
著者；相川章子
発行；中央法規出版
価格；2,600 円（税別）
←この本より引用させていただきました。

《研修報告②》べてる楽会 in 広島

【2013 年 10 月 12 日（土）　エソール広島にて開催】

第 3 回の「べてる楽会」の広島大会が平成 25 年 10 月 12 日（土）に広島市内の会場で開催された。会場のエソール広島には 300 人を超える参加者で、盛況で関心の高さを感じた。私はこの研究会に参加するまでは、「べてる楽会」の存在についてほとんどその知識がなかった。当事者研究が始まった。3 例の広島の方の事例研究が当事者とサポーターの掛け合い形式で、映像パネルを交え、聴く側に理解しやすく、成果の発表が行われた。北海道浦河から来られた「べてる楽会」3 名の当事者コメンテーターその各々の研究発表に対して自分達の克服体験を交えてアドバイスを素朴ながらに話された。

私は精神障害者のこうした研修会は初めての経験だった。というより関心がなかった。まず驚いたのは当事者の事例研究を同じ当事者がパネリストとしてアドバイスすることだ。そして、堂々としたやりとり、屈託のない振る舞い、そこには精神障害者というネガティブな印象は全く感じられない。私はその前向きにそれぞれの自分が持っている障害に対してオープンにさらけ出し克服しようとする姿に勇気づけられた。それが自分達の立場の社会一般の認識を変え、自分自身の内なる偏見を打破することにつながることなんだと実感する。「心からさらけ出した時、人は強くなる」の言葉通りだ。

そして、自分らが（当事者が）ボトム・アップに底辺を拡大し連帯すること、それが社会一般の認識に対する理解を改善すること、「べてる楽会」の方々同様に行動していくこと、それが自分自身を変革成長させる原動力だと痛感する。（報告者；寺本光晴）

べてる楽会 in 広島の様子（撮影；鍋倉信雄）

《リカバリー活動報告①》

編集委員の寺本さんが、2013 年 11 月 1 日号の「広報はつかいち」（シリーズ“ここで生きてきた　ここで生きている　ここで生きていく”）に取り上げられました。反響は大きく、エスペランサだけでなく友和病院にも記事を読まれた方から問い合わせの連絡があったそうです。

こちらは、ネットからも見ることができますので、「広報はつかいち PDF 版」で検索してみてください。

《リカバリー活動報告②》職員基礎研修

【2014 年 2 月 14 日（金）　東区地域福祉センターにて開催】

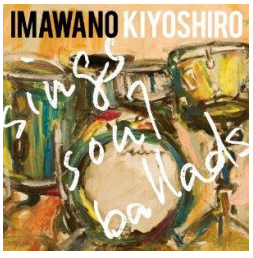
広島県精神障害者支援事業所連絡会の主催で行われた、主に新人さんが対象となる「職員基礎研修」に寺本さんと宮地が参加してきました。広島県障害者支援課豊田主幹の「精神障害者をとりまく施策・制度について」、パレアモア前所長中津先生の「精神障害について（病気・障害の理解について）」の講義の後、「体験発表　当事者からのメッセージ」というコマで寺本さんがご自身の体験を発表されました。

当日は、「最後に 2,3 曲歌って終わる」ことだけ確認して会場に向かいました。思いのほか早く着きそうだったので、少し遠回りして寺本さんがかつて学生時代に通った懐かしい地を巡りました。我々が会場に到着した時間はちょうど行政説明のコマでしたが、入室と同時に会場全体の雰囲気が重く感じられたため（内容からして当然かもしれませんが）、我々の緊張感は一層高まることになりました。そこで、予定を急きょ変更し、最初と最後に歌を持ってくる構成にして本番に臨みました。

挨拶代わりに寺本さんがチョイスした 1 曲目は、特別に思い入れがあるという「500 マイル」という曲でした。私だけでなく、会場にいたほとんどの方が初めて聴く曲だったのではないかと思いますが、寺本さんが曲前に語られた“あの日”の情景が浮かんできて、聴きながら胸が熱くなりました。

講演の内容についてはあえて触れませんが、一発歌って緊張感から解き放たれた寺本さんのメッセージは十分伝わっているというように感じました。後日、連絡会から寺本さんに礼状と共に届いた研修のアンケート結果には、「（日頃の何気ない）声かけやコミュニケーションの大切さが分かった」「こちらがパワーをもらったような気がした」「（寺本さんの話は）感銘を受けることが多く、スタッフだけでなく利用者さんにも伝えたい」「迷いや悩みがある中で、考え方や気持ちをどのようにもっていくかというのを考えさせられた」「職員と患者（利用者）さんだけでなく、人としてのかかわりも大切にしていきたい」等々の貴重なご意見が書かれてありました。それを踏まえ、寺本さんと 2 人で“反省しない反省会”を行いました。最後に、寺本さんの感想をご紹介し、報告を終えたいと思います。（報告者；宮地秀樹）

『“信頼感”が大事ということを伝えたかった。今回のようにメッセージを発信するということは、一番やりたかったこと。自分の弱点（弱み）をさらけ出すことで、ようやく誰とでも対等に話ができるようになったと思った。苦しいだけじゃなく、障害があっても希望は持てる、可能性はあるんだということを示したかった。今回自分が話したことを、利用者の方に伝えてもらって、その人のモチベーションに繋がれば嬉しい。自分がそういう人たちの役に立てるのであれば、これからもこういう活動をやっていきたい。自分を成長させてくれる機会を与えてくれた皆さんと、仕事を引き受けてくれた林さんに感謝したい』



後日、この研修に参加されていた方から、「うちの法人でも寺本さんに話をしてもらいたい」と、講演の依頼をいただきました。開催日時等、詳細は未定ですが、新たなことにチャレンジできる機会を与えていただいたことに、感謝しています。今回は寺本さんの顔見知りが少なく少し寂しかったですが、次回は応援団も引き連れて行きたいと思います。（宮地秀樹）

「500 マイル」

作詞；Hedy West　作曲；Hedy West
日本語訳；忌野清志郎

次の汽車が　駅に着いたら
この街を離れ　遠く
500 マイルの　見知らぬ街へ
僕は出て行く　500 マイル

ひとつ　ふたつ　みっつ　よっつ
思い出数えて　500 マイル
優しい人よ　愛しい友よ
懐かしい家よ　さようなら

汽車の窓に　映った夢よ
帰りたい心　抑えて
抑えて　抑えて　抑えて　抑えて
悲しくなるのを　抑えて

次の汽車が　駅に着いたら
この街を離れ　500 マイル

アメリカの有名なフォークソング（原曲はアメリカ民謡）を忌野清志郎が邦訳した作品。

寺本さんが病院から一泊二日で外泊して、再び病院に戻るために電車を待っていた際、「あそこに帰らんといけんかな」と思った時に、涙を流しながら口ずさんだのがこの曲だったそうです。

「ガンバラナイけどいいでしょう」

作詞；吉田拓郎　作曲；吉田拓郎

今日はいったい何が　どうしちゃったんだろう
胸の中のどこかが　スッキリしない
朝から頭の中も　重たい感じで
動きたくないんだから　仕方無い

こんな気持ち自分しか　わかりはしない
説明なんて無意味な　行動だから
誰かを想ってみようと　考えたけど
恋するウキウキには　ほど遠い

追いかけすぎる事は　いけないんだね
この頃ちょっとだけ　悲しくなり始め
君に会えるだけで　幸せなはずさ
もっともっとステキに　いられるはずさ
まぶしい程じゃなくても　いいじゃない
気持ちをなくしてしまった　わけじゃない
つかめそうでつかめない　とまどってしまう

でも
がんばらないけどいいでしょう
私なりって事でいいでしょう
がんばらなくてもいいでしょう
私なりのペースでもいいでしょう

雨の中を歩けば　気がつく事がある
振りかえってみると　誰もいないんだ
昔人生につまずいた　夜があって
多くの失敗を　くりかえしてました

はしゃいでいた季節は　真実だったし
風邪の行方なんて　わからなかったし
あの日皆が求めたものは　何だったんだろう
僕等の行く先を　誰が知ってたろう

本当の心の中が　言えない気がする
言える時が来ても　言わない気がする
きっとこの頃何かを皆　気にしてるんだね
誰かの顔の色も気にかかるんだね

そこよりもっともっと　それよりももっと
心が痛くならない　つらくない所
例えば求める愛が　遠くても近くても
進んでいくだけが　自分と思ってた

でも
がんばらないけどいいでしょう
私なりって事でいいでしょう
がんばらなくてもいいでしょう
私なりのペースでもいいでしょう

心が歩くままでいいでしょう
そうでない私でもいいでしょう
がんばれないけどいいでしょう
私なりってことでいいでしょう

吉田拓郎が大病を患った後の作品。

最後が、「がんばらないけど」ではなく、「がんばれないけど」となっている所がとても印象に残ります。

友和病院の岩田 PSW に紹介してもらってから、寺本さんのお気に入りの１曲になったそうで、大勢の人前で披露されたのは今回が２度目とのことでした。

《貞松さんのその後》

前号で「私の取扱説明書」を担当された貞松さんが、昨年末に無事エスペランサを退所され、念願だった一人暮らしを始められました。今回は、貞松さんがエスペランサに入所され、退所されるまでの経緯等をスタッフの視点から振り返りたいと思います。

貞松さんについては、今後も追跡取材を行う予定です。（編集委員一同）

貞松さんは、エスペランサを１年７ヶ月利用されました。念願の一人暮らしを始められるまでには、気持ちが揺れるようなこともありましたが、現在は可部で新生活を送っておられます。今回は、貞松さんが退所に至った経緯を私の視点で振り返りたいと思います。

貞松さんは、当初は短期の利用を考えておられました。「すぐにでも自宅に帰りたい」と言っておられたように記憶していますが、主治医に「今の状態では自宅には帰らせることはできない。また何も食べなくなってすぐ再入院になる。簡単な自炊でもできるようになれば帰っても良い。どうしても退院したいのなら、まずはエスペランサで３ヶ月やってみなさい」と言われ、渋々ながらエスペランサを利用することになりました。しかし、短期の予定で利用し始めたエスペランサでしたが、生活やデイケアの通所に慣れたことで居心地が良くなったということなのか、「すぐにでも自宅に帰りたい」という気持ちは次第に薄れたように感じました。こういったことについては、私たちも支援の方向性として正しいことなのかそうでないのか、いまだに判断に悩むところでもあります。

入所してしばらく経った頃、脳性麻痺によるものと思われる体の痛みが出始め、通院していたリハビリテーションの病院に教育入院（自分の障害についての理解が足りないと主治医の先生がご判断されたようです）という形で入院されました。この間、ご自分では半ば諦めかけていた復職でしたが、リハビリの主治医から復職は可能であるとのお墨付きをいただいたことで、それに向けて前向きになられた時期もありました。しかし、職場から復職に関する良い返事はなく、残念ながら諦める決断に至りました。そんな時期、集団生活の場であるエスペランサの暮らしも、人間関係等でしんどさを感じ始め、これから先のことについて真剣に考えられた結果、あらためて退所に向けてやっていくことになりました。

貞松さんにはご両親が残された自宅がありましたので、まずはそちらに帰ることを考えましたが、生活するのには少し不便な場所にあり、日中通える作業所のような所も少ないため、もう少し便利の良い所にアパートを借りて生活したいという思いを持たれるようになりました。どこに住むかについては、病院やエスペランサのある廿日市市内で探すか、地元から近い所で探すか悩んでいたところ、デイケアで見学に行った作業所（可部にある可笑屋）に興味を持たれ、そこに通うことを視野に入れてアパートを探すことになりました。可部は自宅から比較的近く土地勘もあることから、そういった意味でも好都合でした。可部でのアパート探しは、遠方のため自分達だけで探すのは難しかったので、可笑屋と同じ法人の相談支援事業所に依頼しました。しばらくして、条件に合う所を相談支援専門員さんがいくつか見つけてくださいましたが、保証人の調整がうまくつかず、最初の物件は契約には至りませんでした。この間、貞松さんは「やっぱりダメなんよね…」と心が折れてしまいそうになることもありましたが、みんなで励ましたり、初心を思い出し「なぜ可部で生活しようと思ったのか」と何度も振り返ったりして、想いが途切れないように支援しました。

アパートを借りるまで、何度も可部まで通いました。探し始めた頃は、まだ暑さの残る９月の終わりだったかと思いますが、次第に山は紅葉していきました。相談支援専門員さんが粘り強く探してくださり、ようやくアパートが決まった頃はすっかり紅葉の季節も終わった 11 月の半ばでした。それから、引っ越し等でバタバタと新生活を始める準備に取り掛かりましたが、このスピードに貞松さんは疲弊してしまい、いざ可部で新生活を始めようという段階には、すっかり元気がなくなっていました。自ら望んだ新生活だったはずですが、いざ動き始めると不安になり、しばらく落ち込んだ状態が続きました。こうして不安だらけでスタートした新生活でしたが、支援者の方々に支えられ、何とか乗り越えられたように思います。最近は、生活に慣れてきたこともあり、新生活に満足感を感じられるようになっているようです。新生活初日の不安気な表情は何だったのかと思えるほど、今は活き活きと暮らしておられます。単身での生活は楽しいことばかりではないと思いますが、貞松さんが望む暮らしがこれからも継続できることを切に願っています。（報告者；林千代子）

「エスペランサで暮らし、今思うこと」

ここ友和病院は自然に恵まれて、人の生活と自然が調和している豊かな環境だ。私もここに来て 12 年になる。その中の 11 年をエスペランサで過ごした訳だったが、開所当時からここにいる私は、ますますここの退所が困難になってきた。

私は絵を描くのでキャンバスに描きたい絵を表現する事ができるのだが、古典美術を学ぶに至って、概念、哲学を美術に表現するのは今も昔も同じだ。また、芸術の世界を表現するのは絵画の世界に限られた訳ではない。もちろん、音楽だってそうだし、絵画、文学など様々な分野で芸術の役割は成し遂げられている。そういう中にも自分の興味のある分野にいかに興味をそそるテーマがあるかという問いがあるとすれば、若い人はおおいに自信を持つべきだと思う。

しかし、エスペランサでは宗教についても学んだ。私はキリスト教なので、“汝の隣人を愛しなさい、汝の敵を愛しなさい”と教えられているのだが、それ程難しいキリスト教の教訓はない。

いわゆる、人生一生が大冒険であり、学びの宿なのだ。だから、言い換えれば大海に臨んで航海をしているような物だ。何を得るかはその人個人の努力によると思う。もちろん、喜びも悲しみもあるが、そういう感情は動物にもある。

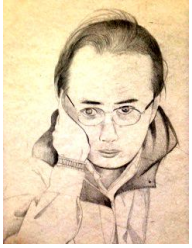
この国ではキリスト教はメジャーではないが、アメリカではむしろそれが支配している位だ。もちろん、あの国でも宗教の自由はあるので、イスラム教徒だっているし、ヒンズー教徒もいる。

今年は、比較的寒くなかったような気がする。それは、自分自身の生活習慣が関係していると思う。でも、私の住んでいる側※ではやはり夏が天国だ。

最近、絵の依頼がめっきり少なくなって、ここ数年でゼロになってしまった。という事は、私はもう絵画の分野で活躍できないのか？確かに、交通の便が不便な中、優れた画材の購入が困難である中の創作活動なので、優れた芸術作品はなかなか難しい。ライバルが大勢いるのだ。もちろん、色々な絵を描く人がいる中、私のように形式ばった難しい絵は、逆に苦手な人が多いのだろうとは思う。このエスペニュースはどこまで届くのだろうか？地球の裏まで届くような気もするのだが。だから、こんな文章はどうでも良いのだと思う。テレビの中では、冬季オリンピックが非常に話題になったが、さてそういう分野で活躍できない私はこれからどうなるのだろうか？

2014 年 2 月
岡本建

※エスペランサには駐車場側の部屋と山側の部屋があります。前者は、日当たりが良いので洗濯物が良く乾き、冬場は比較的暖かい、景色が良い等の長所がありますが、夏場は暑く、駐車場側なのでうるさい、病棟から部屋が見える（中には、病棟が見えて良いと言われる方もおられます）等の短所があります。後者はその反対に、静かで、夏場は比較的涼しい、自然を感じられる等の長所がありますが、日当たりが悪いので洗濯物が乾きづらく、冬場は寒い等の短所があります。部屋の空きがないと選択の余地はありませんが、選択できる場合はその辺の特徴を踏まえて決められています。



《社会資源の紹介》

前号に引き続き、廿日市地域で行われている“ふらっと・ハーバー”の取り組みを紹介させていただきます。

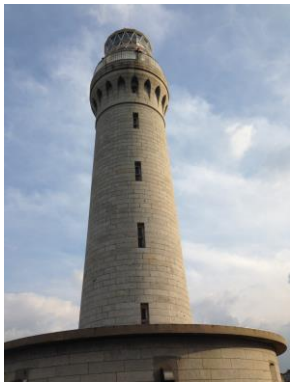
“ふらっと・ハーバー”は、「病院や施設から退院・退所した後も地域で集まる場がほしい」ということで、福祉サービス利用者及び関係者の呼びかけで 2011 年 1 月に始まった親睦団体です。名前の由来は、「“ふらっと”立ち寄れる“ハーバー（港、船着き場)”」のような存在になることを願うところから来ています。

主な活動としては、「夕食会」を毎月第 3 土曜日の 16:00～19:00 にあいプラザ内にて行っています（但し、内容によっては日時・場所等を変更する場合があります)。夕食会以外の活動実績としては、新年会、お花見、クリスマス会、日帰り旅行（これまでに萩・津和野、湯田温泉・毛利氏庭園、下関・角島に行きました)、外食等があります。

参加希望の方、詳細について聞きたい方等は、下記申込先の各担当者までお気軽にお尋ねください。

概　要

【日　時】　原則として、毎月第３土曜日　16:00～19:00 頃
【内　容】　主に夕食会を中心に行っています
　　ミーティングで話し合い、日帰り旅行や外食をすることもあります
【場　所】　あいプラザ 2 階　調理室＆栄養指導室
【参加費】　実費（かかった費用をワリカンにします）
【申込先】　相談支援事業所エスペランサ　（担当；宮地）　TEL；0829-74-1106
　　さくら相談支援事業所　（担当；今田）　TEL；0829-31-5009
　　コーヒーショップあんず　（担当；木村）　TEL；090-2293-0999
　　障がい福祉相談センターきらりあ　（担当；倉本）　TEL；0829-20-0224



2014 年度　ふらっと・ハーバー行事予定

4 月 19 日（土）；夕食会
5 月 17 日（土）；夕食会
6 月 21 日（土）；夕食会
7 月 19 日（土）；夕食会
8 月 16 日（土）；夕食会
9 月 20 日（土）；夕食会
10 月 18 日（土）；夕食会
11 月 23 日（日）；日帰り旅行（浜田・アクアス）
12 月 20 日（土）；クリスマス会兼忘年会
1 月 17 日（土）；新年会
2 月 21 日（土）；夕食会
3 月 14 日（土）又は 3 月 28 日（土）；ミーティング

※日程は、あくまで予定です。会場の都合等により変更の可能性がありますので、あらかじめご了承ください。（ふらっと・ハーバー事務局　宮地秀樹）

《異動のお知らせ＆新入職員の紹介》

森岡ゆかり
10 月 21 日生まれ
てんびん座／A 型

はじめまして。2013 年の 10 月 16 日からエスペランサで働く事になりました、森岡ゆかりです。友和病院の給食で 9 年近く勤めていました。皆さんの中には、顔を知っている人もいるかと思います。

私には、娘が 2 人います。実は双子なんですが、二卵性なので顔があまり似ていません。小さい時は年子と思われていたぐらいです。下の子といっても生まれは 4 分しか違わないのですが。妹の方は私に似ています。姉の方は父親似ですかネ…。姉の方は結婚していて 1 歳になる男の子がいます。そーなんです。私はもー、おばあちゃんなんです！！見ての通りだと思いますが、元気ばあちゃんです。エスペランサでもおばあちゃんパワーが出ていませんか？そんな時は笑ってくださいネ。

エスペランサの仕事はまだ慣れていないので、皆さんや他のスタッフさんに迷惑をかけていると思います。分からない事だらけですが、助けてもらいながら、仲良く頑張って行こうと思います。声が大きいのが少し悩みですが、持ち前の明るさと笑顔で皆さんとやっていきたいので、よろしくお願いします。

辰本尚子
12 月 14 日生まれ
いて座／AB 型

はじめまして。3 月 1 日からエスペランサで世話人として働かせていただくことになりました、介護福祉士の辰本尚子です。

趣味は、音楽鑑賞と家庭菜園です。音楽は、モーツァルトや EXILE、ゆず等、クラシックからポップミュージックまでいろいろなジャンルを聴いています。アップテンポな曲が流れていると、思わず体でリズムをとってしまったりすることもあります。野菜が大好きなので、ほんのわずかな家庭菜園ですが、とりたての野菜を調理して食べています。今は、夏野菜の植え付けに向けて、新品種で作りやすいものがないかと探っているところです。

エスペランサでは、利用者さんの自立に向けてどのような支援ができるのか、利用者さんと一緒に考えて行くことを大切にしていきたいと思います。何かと至らないことがあると思いますが、笑顔で一生懸命勤めさせていただきます。ご指導のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

☆友和会の最新情報はこちら☆

医療法人社団友和会　友和病院

友和会のホームページでは、各部署での取り組みの様子等が随時更新されています。昨年度より、栄養給食課の「地産地消プロジェクト」や「法人内インターンシップ」が開始される等、法人内の動きが活発になっています。本誌（配布分は白黒ですが、ホームページ掲載分はカラーです！）の他、病院家族会の会報やデイケアの通信等のバックナンバーもご覧になれるようになっています。ブログや Facebook 等もありますので、こちらもあわせてご覧ください。

URL は、http://www.yuwa-hosp.com です。

Google で検索する際は、「友和病院」と入れていただくだけで、すぐにご覧になることができます。

《ご意見箱》

・「各居室の煙探知機の検査の際、ミーティングで立ち会いの希望をしていたにもかかわらず、（業者の人とスタッフに）無断で入室された」
（2013 年 10 月 17 日聴き取り）

回答；この件は、ミーティングに参加していたスタッフと当日対応したスタッフが異なっており、ミーティングでの話し合いの結果がスタッフ間で共有されていなかったのが原因です。今後は、引き継ぎにミスがないようにより一層気を付けます。

これまでデイケアに通われているかたにつきましては、プログラム中に一時的に戻ってきてもらう等して対応してきましたが、検査は朝一番で行われることが多いので、今後は立ち会いを希望される方につきましては検査が済んでから、各々の日中活動先に行っていただくようにしたいと思います。

（エスペランサスタッフ一同）

《編集後記》

・サンフレッチェ、3 連覇目指して頑張れ！9 ヶ月になる姪が可愛くて仕方ないです。早く会いたい。（サンフレッチェ大好きっ娘）

・森岡さんと、辰本さん、自分のデッサンを担当しました。1 つにつき 30 分位でできました。寒いのは辛くて嫌いなので、これから暖かくなるのを楽しみにしています。（岡本建）

・4 ページに全ての歌詞が掲載されていますが、私は吉田拓郎さんの歌、「ガンバラナイけどいいでしょう」が好きです。特に、最後のフレーズが気に入っています。時々、ギターでポロポロと口ずさみます。（寺本光晴）

♪がんばらないけどいいでしょう　私なりって事でいいでしょう
♪がんばらなくてもいいでしょう　私なりのペースでもいいでしょう
♪心が歩くままでいいでしょう　そうでない私でもいいでしょう
♪がんばれないけどいいでしょう　私なりってことでいいでしょう

・11 月に“ふらっと・ハーバー”の日帰り旅行に参加しました。唐戸市場で食べた鯨肉の寿司がとても美味しかったです。また旅行に参加して、たくさん写真を撮ろうと思います。
（鍋倉信雄）

・今回は編集委員の活動をお休みしました。（H.N）

・今号より編集委員として加わることになりました。次号より活躍する予定です。（村木克彰）

・久々に復刊した前号は、法人内外からそれなりの反響がありました。「よくやった」「面白かった」「中身が濃くて良かった」という声から、「そこまでやる必要があるの？」「詰め込み過ぎで読みづらい」「個人的なことは取り上げるべきではない」「実名でやるのは止めた方が良い」「どこに向けて作っているの？」という声まで、様々なご意見を頂戴しました。良くも悪くも反響があったことは、編集に携わる者としてはありがたいことと感謝しています。本誌は、“私たちの・私たちによる・私たちのための”紙面作りをしておりますので、人によっては“ん？”とクエスチョンマークが付くようなこともあろうかと思いますが、我々はこのエスペニュースを通じて「自分たち自身が成長することを信じる」という姿勢で取り組んでいることを念頭に置いてお読みいただけると幸いです。今後もご意見、ご感想等を編集委員までお聞かせいただけると嬉しいです。投稿や企画案も募集中です。（宮地秀樹）

☆「エスペニュース」は、利用者、ご家族、役場や障害福祉サービス事業所等の関係機関、法人内各部署へ約 100 部配布（送付）しています。次号は、10 月頃の発行を予定しています。